

戸田型PBL (Project-Based Learning) の考え方4

戸田型PBLをより質の高いものにするために、「活動」や「学び」をホンモノ化するポイント



[参考]
戸田型PBLについての
解説動画等

「活動」がホンモノになっているか見取る視点

Q. 本当にその問題が自分ごと(切実なもの)になっているか?

そのために伴走者として教師は…

- ✓ 「高齢者のため」といった抽象的な対象ではなく、「〇〇さん(及びそのような人)のため」となるよう、**特定の個人等の強い思いや願いと深く関わる**ことができるようにし、アンケートやインタビュー、行動観察などで**検証できる目標**を設定するように促す
- ✓ もしくは、「漢字が嫌い」「ゲームが好き」など、**自身の身近な生活における強い感情**からスタートし、結果として他者のためにもなる活動に繋げつつ、アンケートやインタビュー、行動観察などで**検証できる目標**を設定するように促す
- ✓ 自分たちがまだ達成できていないことについて、校内や地域を啓発するなど、自分が問題の枠外にいる感覚で問題に向き合うことのないよう、学習活動を随時振り返りながら「**まずは自分(たち)はどうか**」と足元を問い続けるように促す

▼活動がホンモノ化すると

「授業以外でも活動して進めたり、みんなに呼びかけたりしているよ！」



「学び」がホンモノになっているか見取る視点

Q. そのテーマや問題に関わる「本質」まで掴むことができているか?

そのために伴走者として教師は…

- ✓ 活動を振り返り、身に付けたスキルや方法論を自覚化するだけでなく、そのテーマや問題の「内容の奥深さや本質(**概念的な知識**)」を、自ら見出すことができるような単元をデザインするために、あらかじめ教師自身がそれを探究し、言語化しておく
- ✓ 「給食の残食があるので給食のよさを伝えよう」といった、問題に対してすぐに解決策(HOW)を出すのではなく、「なぜ給食が残るのか」という**原因(WHY)を追究**したり、先行事例を調べて分析する活動をした後に解決策を考えたりするように促す
- ✓ アンケートやインタビューの回答、あるいは議論や批評会等から得られる忌憚のないフィードバックや、失敗も含めて実際に行動した結果など、**自身の認識や仮説と「現実とのギャップ」に直面する状況**を何度も繰り返し、人や物事の本質に迫れるよう支援する

▼学びがホンモノ化すると

「自分の生活や将来に活かそうぞぞ！これからもテーマを深めていきたい！」



ホンモノ化の土台となる組織的な取組

- ・「指導の重点・主な施策」の冊子を活用し、**すべての学校活動**において子供を主語にした学びを目指している
- ・学校教育目標に基づき、生活・総合や各教科等を**横断的・系統的**に設計し、全校で組織的に取り組んでいる
- ・子供同士だけでなく、学校全体として安心して自由な発言ができる**心理的安全性**を意識した環境作りをしている